

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

サマーフェスティバル in FUNAO

「サマーフェスティバル in FUNAO」に学校から二つのブースを出してほしいという依頼があった。何をやるのかなと何日か考えて、フリースローとわなげをすることにした。特にわなげは、寄島小学校に勤めていたときに、夏祭りで商工会青年部の人やがやっていて、一等の賞品の真鯛をゲットしようと子どもたちが夢中になっていたことを思い出してあの雰囲気を作りたいと思った。

角材の端材を10cm、15cm、20cmに切った。太い角材は倒れにくいだが細い角材は容易に倒れる。何度かやってみたが何か物足りない。孫の小さいぬいぐるみをのせてやると雰囲気がでた。ただ、ぬいぐるみはことごとく落ちる。家内に相談すると「おふろで遊ぶアヒルがいいんじゃないの。」と言い、百円ショップで一セット買ってきてくれた。アヒルだと重さがあるので、角材の高さによっては落ちにくい。試行を繰り返し、アヒルとぬいぐるみを高さや太さの違う角材にのせて難易度を変えることにした。

店を開く時間になるとお客さんが来てくれるか不安になった。副会長さんもわなげを用意されていて「どっちがにぎわうか競争ですね。」とプレッシャーをかけるものだからドキドキしてきた。低学年、幼稚園、保育園の子どもたちを中心にお客さんが途切れることなく来てくれた。堅実に得点を重ねようとする子もいれば、いきなり高得点をねらう子もいる。ゲームの仕方にもその子の性格が表れているようだ。アヒルの方が倒れにくいと待っている間に気づいたはずなのに、難易度の高いパンダとハムスターのぬいぐるみをねらう子が多いのも楽しかった。順番を待つ列は続いていたけれども景品が底をついたので店じまいをした。一人について3～4匹のアヒルを拾い5本の輪を拾い、角材を立て直したものだから腰が痛くなった。アマゴのつかみ取りをしてみたかったし、流しそうめんをわいわい言いながら食べている様子も見たかったけれど、アヒルを拾っているうちにどれも終わっていた。残念！！まあそれでも、わなげが盛況だったのでそれでいいか。

親師会の役員さんやOBの方々も何人来てくれるか不安だったそうで、思った以上の参加者で会が成功したことをともに喜んだ。子どもたちに夏祭りの楽しい思い出を作りたいと、会を企画してくださった方々のことをすばらしいと思ったし、その思いにこたえて暑い中参加してくださった小学校、幼稚園、保育園の保護者の方々もすばらしいと思った。そして、何より抽選会が終わって帰られるときに「ありがとうございました。」と声をかけていただいたことがうれしかった。船穂学区の方は、運動会、学芸会などの行事に来られ、帰られる際にもこの感謝の言葉をよく口にされる。船穂学区の美点だと思うし、子どもたちの気風のもとになっているとも思った。

くたくたに疲れたが、さわやかな気持ちにひたれた一日だった。

